



「おかしい」と声に出せるうちに

小林知佐

普段は、記憶の彼方へ押し込めてある情景が、「戦争」という二文字を聞くと思い浮かんでくる。就学前の幼い私が、茨城県の母の郷里で見聞きしたこと。祖母が私の手を引き、駅前や商店街あたりを歩いていた。当時、既に戦後であるにもかかわらず、軍服を身にまとった元兵隊たちが、路上に座り、物乞いをしていた。彼らは、たいていの場合、戦傷したらしく腕や足がなかったり、目が見えなかったりした。幼かったが、実際に目にした「戦争」の傷跡として記憶している。

小学校の教員であった祖母は、空襲のたびに生徒たちと防空壕へ駆け込んだ。皆が逃げる方角と逆に走る校長。彼は、空襲があると必ず学校の講堂へ向かい、命がけて天皇陛下の写真と日の丸を守るのだ。祖母には終戦を迎えるまでもなく、日本の敗北が分かっていた。「日本は負ける。戦争は間違いだ」と祖母が言うと、校長に「めったなことを言うもんじゃない。誰かに聞かれてもしたらどうする。非国民だ！」と怒鳴られたそう。かわいい教え子に、教育勅語を叩き込み、お国のためにわが身・わが命を捧げよと教えてきた教師。どんどん戦争の犠牲者になる教え子たちを、どんな思いで見つめていただろう。校長は、私の祖父となり平和な時代になっても、その思いを語ることはなかった。自分を責めていたのか、教職時代の、特に戦時下の当時の話になると口を閉ざした。

戦後、60年が経ち、戦争の記憶を持つ人が減ってきている。私の祖父母も、もうこの世にいない。40代になった私くらいまでが、かすかに戦争の傷跡の記憶があるか、ないかといった世代であろう。若い人たちは、メディアを通して異国の地での出来事として、あるいは頭の中で戦争というものを想像するしかない。戦争を風化させてはいけない。現実から遠いものにしたいが、そうでもなくなりつつあるようで恐ろしい。

今、憲法を変えようという危険な動きがある。日本の軍隊保持・武力行使が憲法9条の解釈改憲ではなく、合憲となるように憲法9条を変えるのが狙いだ。戦争のできる国へ、そして国民に兵役も課すかもしれない。核も保持するかもしれない。「…永久にこれを放棄する」のではなかったのか。

唯一の被爆国である日本は、最後の被爆国でなければならない。

戦争は、敵国の人を人間と思わせない狂気の状態に、人をおとしめる。戦争では人殺しが肯定される。

ベトナム戦争で使われた枯葉剤、あれがもたらした悲劇は、罪のない子孫にまで及ぶ。

武力で国際平和が築けるのか? 「テロに屈するな!」だって、武力をもってか? 戦争に人道はない。何も生まれない。破壊・破滅があるだけ。戦争は、人類最大の罪である。

人権や自由や民主主義を犠牲にして戦争が起こる。平和でなければ、文化・芸術は存在しえない。教育も屈折してくる。日本の歴史教育に、日本軍のアジアでの侵略戦争という蛮行はない。

戦争に突き進めば、われわれがたずさわる医療・福祉の分野の価値などは、究極的に軽んぜられることになる。

PKO 協力量案のもと、自衛隊の海外派兵が始まり、日米安保条約のもと、米軍基地への多大な思いやり予算あり、防衛庁が省へ昇格し、軍事費の予算がますます大きくなるであろうことは明白。しわ寄せは、国民への税金であり、年金であり、医療・福祉・介護の自己負担が増える。日本経団連による改憲構想についての意見書では、集団的自衛権行使の明記を主張している。政治が経団連寄りに動き、国民の方へ向いていないことがよく分かる。

戦前のような、「お国のために捧げる命」という価値観が浸透し、個人の命が虫けらのごとくに扱われたす…。考えただけで恐ろしい。

「憲法9条」が、戦争への国の暴走を食い止める歯止めの役目を果たしている。

「おかしい」と声に出せるうちになんとかせねば、口に出すことすらできなくなる。

絶対に憲法9条は守らなければならない。

私の愛おしい子どもたちも徴兵される時代がくるのではないかと恐ろしく思う。

平和とは、世界中の人が希求し続けなければ、守れないもの。たやすいようで、これが難しい。イデオロギーの違いを超えて、時代を超えて守らねばならないもののはず。

日本国憲法の前文で、第一に「恒久平和」を念願し、「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼」して「われらの安全と生存を保持」するという「決意」を明記している。第二に、「全世界の国民がひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利を有することを確認」している。前文は、自国民だけでなく、全世界の人々に平和的生存権があることを確認し、それが保障されるという「崇高な理念と目的を達成すること」を厳粛に誓っている。なんと、素晴らしいではないか!

憲法9条は、この「崇高な理念と目的」を達成するための画期的な規定であり誓いなのだ。

だから、「憲法9条」を変えてはいけない。一言一句たりとも。

(こばやし・ちさ 京都・あゆみ薬局)

